

令和3年度 第3回学校運営協議会・第1回学校評価部会

令和3年10月21日(木) 於：上越市立有田小学校 会議室

1 開会のあいさつ(会長) 略

2 後期学校評価結果の説明

【学校評価へのご意見など】

- A氏：(スクールバスの運行に関する保護者の自由記述について)何を言いたいのかよく分からない。
それでも、その真意を読み取って、これに正対した策を具体的に示さなくては、いつまでも問題は解決していかないのではないかと？
学力面も同じことが言える。国語が分からなければ問題の意味を理解できないのだから、算数も分からなくなる。国語に力を入れなくてはならない。メディアに関する自由記述も根本は同じ。国語に力を入れて、メディアのルールづくりをしっかりとしていけば、学力面も自ずと上がっていくのではないかと。そのためにも、保護者を「評価者」ではなく「提案者」にしていく手立てが必要のように感じる。あわせて、全ての問題に学校が対応できるわけではなく、問題の切り分けも必要だろう。
- B氏：評価を見て率直に感じたことは、保護者が何事も学校任せだな…と。
- C氏：スクールバスが運行されている趣旨や経緯も保護者に伝わっていないと感じた。乗せてもらって当たり前だと思っている。ここに至るまでの詳細が分からないからだろう。有田小創校時、小猿屋地域は学校から2km以上という基準以下であっても特例として認めてもらうなど、運行に向けて地域が相当尽力してきた経緯がある。
- A氏：スクールバスも公共交通機関であり、個人の都合に合わせて…という要望はいかなものか？
- C氏：メディアのルールも一緒だと思う。そのような親だからこそ、子どもにも言えない。学校任せではなく、自分の子は自分で…が基本なのだが。
- A氏：ただし、どのようなやり方をしたら効果があるのか…は学校に頼らざるを得ないのが実際。良い方法を例示するとか、標準を示すとか…。そのような仕掛けも必要だ。
- C氏：昔の「食事の時は、テレビは点けない」なども、その一例だ。
- A氏：学校としては「ちょっと良くなれば良いだろう」というくらいの構えで十分だと考える。学校で仕掛けてPTAでフォローするのが良いだろう。特に「時間」、次に「国語」。「時間」のメリハリをつけていくこと。
少し話はずれるが、全国学力調査の実施時期も良くないね。これ、他校でも同じような傾向だ。あと、メディアの時間が長い+国語に課題…という傾向は数年前にもあったように思う。体力面はスクールバス利用でどうしても落ちてしまうだろう。歩かなくなるからね。その分をどう補うかも考えなくてはならないだろう。あと、親が簡単に送り迎えをし過ぎていることで、以前よりも歩かなくなっているのは事実だ。体を動かして疲れて眠るのとメディアで疲れて眠るのでは、睡眠の質も違うだろう。学力と体力は相関があるし、これは心にも影響があるだろう。

3 意見交換

- D氏：1年生を参観した。多くの支援員が入っているが、不適応の見られるお子さんもいる。先生方による配慮の実態はどうか？

- 教頭：コロナ禍で保幼小連絡会が実施できていないことも影響している。本来ならば、入学当初に園の担任さん方に参観いただき、実態を見ていただいた上で効果的な助言をいただくことなども可能なのだが果たせない。状況が落ち着いたら、ぜひ取り組みたいと考えている。
- 校長：インクルーシブ教育の理念の下、個別の支援計画を作成し、実施している。これは特支学級在籍ばかりではなく、通級指導利用者などにも適用しており、その数は100名を超えている。各学級に6～7人該当するお子さんがいる状況である。
- E氏：小学6年生が中学1年生になっていくときに、昔、起きた問題が起こるか…が気になっている。小規模校から来た児童と大規模校であった春日新田小の児童がバッティングしたことがあった。春日新田は中規模校となり落ち着いたが、今度は有田小が大規模校になり心配である。その対策も必要だ。同じことだが、有田小内にいる小猿屋の子どもたちへのあたりはどうだろうか？周りの環境に合わせていく力も育てなくてはならない。
- A氏：児童増加へのビジョンも必要だろう。特別支援に関する研修や周知も進めなくてはならない。
- F氏：学校として踏み込んでいけないところも多いと感じた。保護者と学校の相互理解を進めることが必要だろう。学校だけでは解決が難しいということも伝え、「一緒にやろう」との意識を高めていかななくてはならない。家庭には「当事者としての提案」をお願いしていきたい。
- B氏：メディアに関してはPTAころ育成で手を付けたかったところだった。だが、もう少し情報を集めたり、状況を確認したりしたいと考え、今年は「挨拶」から入った。メディアでこれだけの意見が出たならば、次回のテーマにしたいと思う。帰宅時間に関する記述もあったが、注意した保護者が文句を言われる、子どもに悪態をつかれるということがある。こういうのは嫌だな…と思うし、そのような地域にはしたくないと思う。
- A氏：大人も注意の仕方を学ぶ必要がある。その子にあった叱り方を見抜くことも大切。怒られたことがない人が怒るのだから学ばないと。今はそういう講師もいるので。良くない叱り方で叱るから子どもも優しくなくなるのだと感じている。
- G氏：春日新田小は人数が減ったこともあり落ち着いている。有田小は人数が多いのでどうしても問題が多くなってしまいが、それでも現在は、これまでに見てきた中でも落ち着いていると感じる。読み聞かせの活動をしていても、聞き上手の子どもが増えてきていると感じるし、地域としては「有田子どもフェスタ」に有田小の子どもも参加しているが、実にいきいきと参加している。
- A氏：現在、コロナの状況が落ち着いてきているので警報が解除されるなど制限も緩和されているが、それによって具体策を失うことが心配である。ワクチン対応などにも注意が必要。ワクチン差別や逆差別が起こらないように配慮をいただきたい。あわせて、状況が改善されたように見えても簡単にマスクオフをすることのないようにも注意いただきたい。
- H氏：子どもたちは、家に帰ったらまず何をやるのだろうか？宿題をするとかは基本であって、それをさせるのは保護者、家族だろう。帰宅時間だが、17時過ぎには声を掛けるようにしている。素直に従う子どもは多い。ただ、気になる迷子もあった。夕方遅くに、自分の家の話もできないような他地区の幼子がうろうろしていたことがあり、結局、警察に保護をお願いするしかなかった。その後、無事に親に引き渡されたようだが…親は何しているのかと。

4 閉会のあいさつ（校長） 略

※本議事録は発言録ではなく、記録者がまとめたものです。ご了承ください。